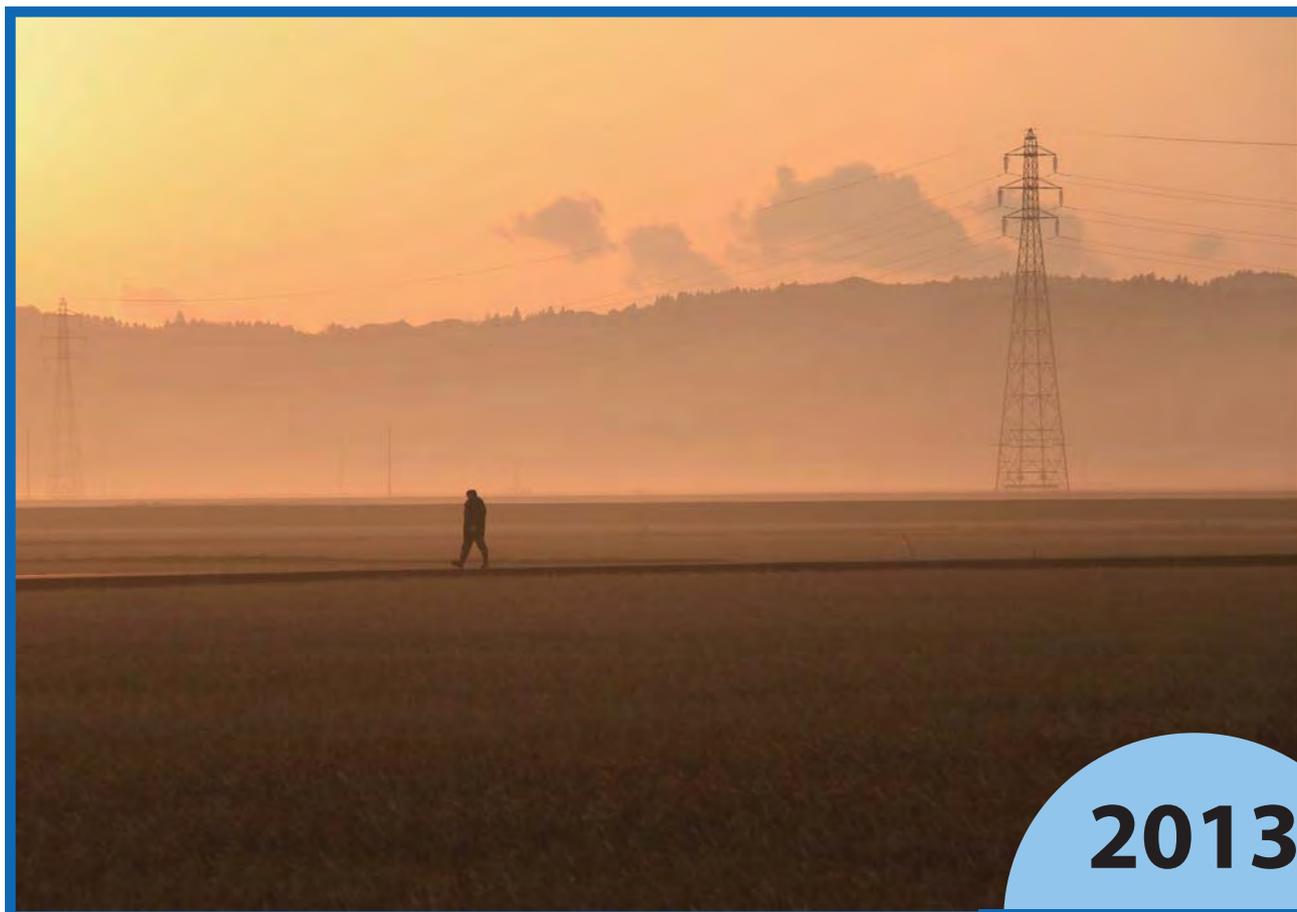


水土里ネットちば

Chiba Prefectural Federation of Land Improvement Association



第19回写真コンテスト 佳作「耕地の朝」

2013

No.300

CONTENTS

夷隅川1期地区 中根六社祭り

千葉県「組織の変遷」	1
第36回全国土地改良大会(北海道大会)に参加して	3
土地改良事業功績者の紹介	5
平成25年文化の日 千葉県功労者表彰	6
「瑞穂地区水稲体験学習会」の開催	7
第19回美しい農村環境写真コンテストの審査会の開催	8
第19回美しい農村環境写真コンテストの結果及び作品紹介	9
「水の週間」中学生 水の作文コンクール入賞作品	12
東日本大震災の被災地(福島県いわき市)からの復興便り	16



夷隅川1期地区 中根六社祭り



人間やぐら

廻り松



いすみ市内の農村では、祭りなどの貴重な伝統文化が、地域の人々によって傳承されています。経営体育成基盤整備事業夷隅川1期地区内の押日八幡神社周辺で行われる「中根六社祭り」は、特色のある祭りの一つです。

毎年9月25日、近隣の六社の神輿が集まります。祭りの見どころの一つが「人間やぐら」。境内で若者たちが人間ピラミッドを組み、最上段の人が扇をかざして「おおやのへいだ（親の日だ）」と囃したてます。

その行事が終わると最後の行事である「廻り松」が行われます。神社の近くに一本の松があり、六社の神輿が神輿を差し上げながら廻っていきます。

250年ほど前から続くという珍しい神事が、今年も披露されました。

夷隅農業事務所 技師 大野竜矢

千葉県の「組織の変遷」

千葉県農林水産部
農村環境整備課長 小橋 純

会員の皆様におかれましては、日頃より千葉県の農業振興、とりわけ農業農村整備の推進に対しまして、多大なるご理解、ご支援を賜っておりますことを厚く御礼申し上げます。

今から107年前の明治39年、千葉県庁に「耕地整理係」が設置され、また、昭和25年に初めての土地改良区が設立されて以来今日まで、先輩方そして会員の皆様方のご尽力により、発展した千葉県農業の礎となる「土地改良(農業農村整備)」が実施されてきました。

今回、近年業務に携わることになった「土地改良区」「市町村」「県」の職員や、役員様方のために「土地改良区の概要」と「県の土地改良関係組織のあゆみ」を簡単にまとめましたのでご紹介します。

戦後の食糧増産のための「干拓」や、昭和40年代以降急激に人口増加した千葉県の生産基盤となる「ほ場」「農業水利施設」の整備等、何時の時代に何が求められ、何をしてきたか、そして「先輩方の苦勞」を少しでも感じることができ、皆様が携わることになった歴史ある「水・土・里」の財産や組織に誇りを持ち、そしてその財産を次世代につなぐための参考にしていただければ幸いです。

1 千葉県の土地改良区の概要

1) 「管内別」土地改良区数 (面積・組合員数)

管内	改良区数	地区面積 (ha)	組合員数 (人)	1組合員あたり平均面積 (ha)	管内別の地区面積上位5つまでの改良区
千葉	38	3,383	8,692	0.39	市原市五井連合、千葉市東部、市原市海上、市原市市西、市原市加茂
東葛飾	16	6,457	11,314	0.57	千葉県手賀沼、東葛北部、利根、野田市南部、流山市新川
印旛	31	16,200	21,362	0.76	印旛沼、北総中央用水、成田用水、千葉県根木名川、鹿島川
香取	17	7,905	10,882	0.73	北総東部、香北、香取市東部、香取市豊浦、香取市黒部川左岸
海匝	9	12,797	15,736	0.81	千葉県大利根、千葉県干潟、東総用水、千葉県借当川沿岸、海上郡飯岡町
山武	11	21,791	27,335	0.80	両総、山武郡中央、小中川、篠本新井、松尾町豊岡
長生	9	2,598	4,683	0.55	松潟、内谷川沿岸、赤目川、長生郡一宮町東部、長生郡長南町東部
夷隅	17	3,549	6,141	0.58	勝浦市、夷隅中部、夷隅川、いすみ市古沢、夷隅郡太東第二
安房	34	3,571	8,583	0.42	安房中央、鴨川市加茂川沿岸、東条、鋸南町鋸南、長狭中央
君津	32	6,247	12,211	0.51	小糸川沿岸、浮戸川沿岸、小櫃堰、天羽、武田堰
計	214	84,498	126,939	0.7/ha/人	(※両総のように、受益が複数管内にまたがる場合、面積・組合員数は所管の事務所に計上)

2) 「地区面積別」土地改良区数

地区面積 (ha)	改良区数	土地改良区名
1万 ~ 2万	1	両総
5,000 ~ 1万	2	千葉県大利根、印旛沼
3,000 ~ 5,000	3	千葉県干潟、北総中央用水、北総東部
2,000 ~ 3,000	4	山武郡中央、千葉県手賀沼、成田用水、香北
1,000 ~ 2,000	6	東葛北部、小糸川沿岸、東総用水、安房中央、利根、千葉県根木名川
500 ~ 1,000	12	
300 ~ 500	11	
100 ~ 300	51	
50 ~ 100	42	
30 ~ 50	36	
~ 30	46	
計	214	

千葉県内の土地改良区数 **214**

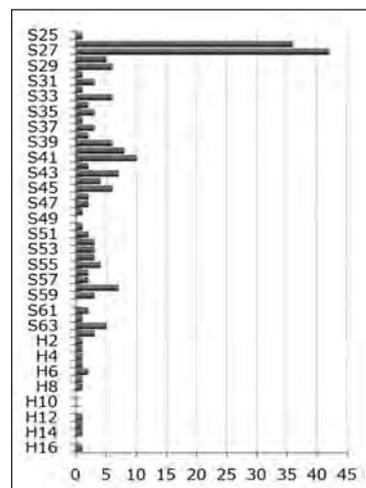
改良区が管理している面積 8万4千ha

総組合員数 12万7千人

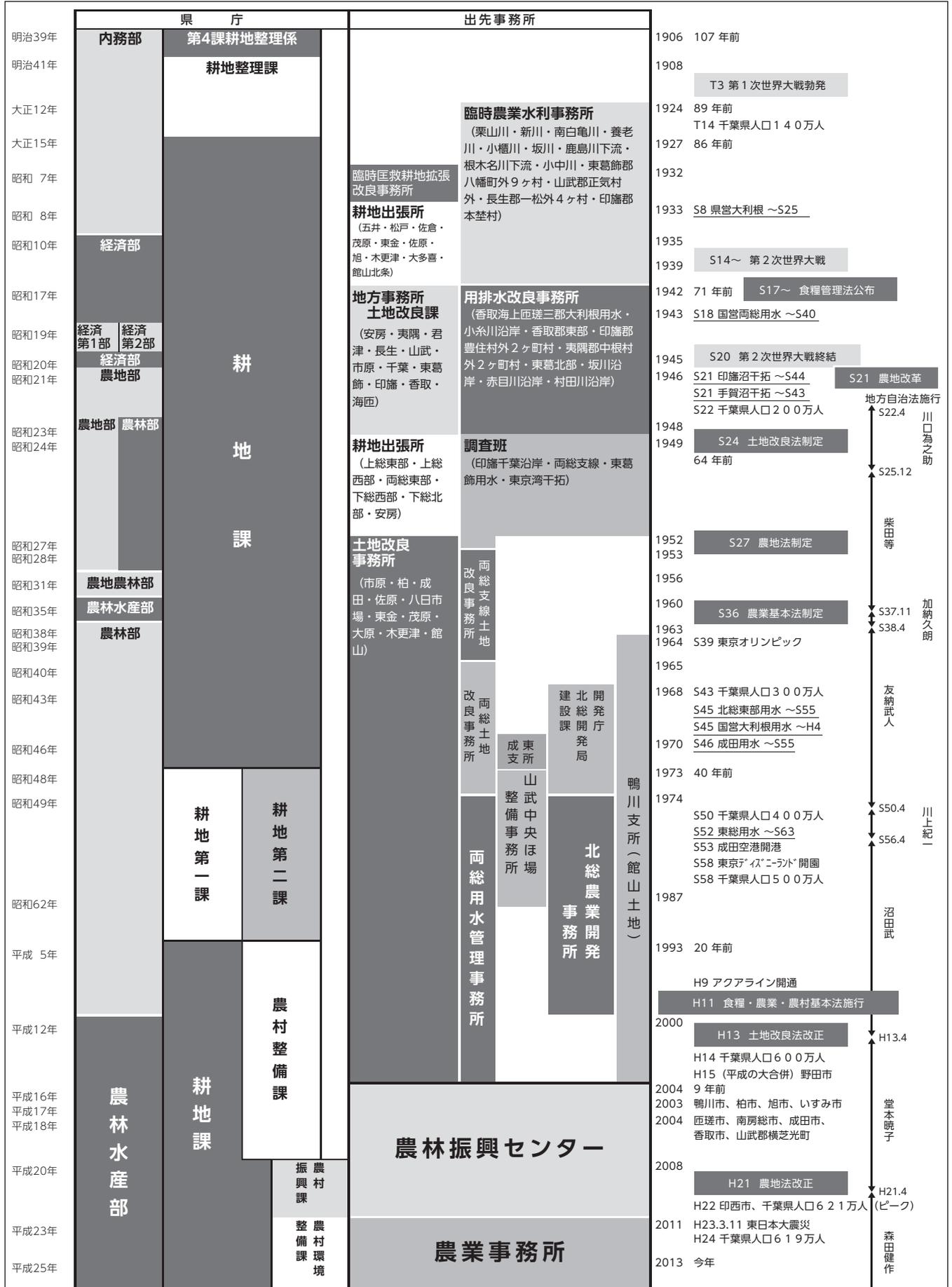
1組合員あたり平均面積 0.7ha

(※面積は平成25年度時点)

3) 年別土地改良区設立数



2 明治の耕地整理係から今日までの「千葉県の土地改良関係組織」のあゆみ



第36回全国土地改良大会（北海道大会）に参加して

大会
テーマ

水・土・里かがやく北の大地 明日を担う土地改良

～食と農業・農村の未来を確かなものに～

千葉農業事務所基盤整備課長 平元 利昭



平成25年9月10日から12日にかけて、全国土地改良大会北海道大会に参加しました。

北海道というとまず、その広大な台地に圧倒されます。羽田から新千歳空港に降りたち、バスの車窓からみる、千葉では見られない牧草、牧畜景観、先の境界が見えない畑等、空気の違いを感じさせられます。

東北6県合計面積をさらに上回る面積を有すると聞き、なるほどと思いました。

北海道の農地面積は全国の1/4を占め、その恵まれた土地資源を生かし、全国の1割を超える農業産出額があり、小麦、ばれいしょ等多くの農産物の生産量が全国1位となっています。そんな北海道でも農家数の減少が続いており、課題として優良農地の保全活用、排水不良地の解消、また基幹的農業水利施設の老朽化への対応が迫られているようです。

11日は午前中、「サッポロさとらんど」という札幌市の農業体験交流施設を見学しました。札幌市の郊外にあり、農作物の栽培技術向上の試験栽培も行っている市の農業支援センターや、バター、ソーセージ等の手作り体験ができ農業に親しめる「さとらんどセンター」、食農教育や体験農園、その収穫作物を使用したイベント会場である交流館等があります。



さとらんどセンター

いずれにしても74ヘクタールもある広さに改めて北海道の広さに驚かされます。

また、さとらんどの隣接地に、この3月から発電を開始している市内初の大規模太陽光発電施設であるメガソーラー施設を見学しました。

そしていよいよ11日の午後、札幌市の道立総合体育センター「北海きたえーる」にて全国の農業農村整備事業関係者約3千名が参加し、全国土地改良大会北海道大会が開催されました。



北海道土地改良事業団体連合会の宮谷内副会長によって開会宣言がなされ、開催地である北海道土地改良事業団体連合会の眞野会長、主催者の全国土地改良事業団体連合会の野中会長の挨拶、また開催地元を代表して高橋道知事から歓迎のことばがありました。また来賓として、江藤農林水産副大臣から祝辞がありました。

第36回全国土地改良大会（北海道大会）に参加して

次に、永年土地改良事業に貢献された方々が表彰され、千葉県からは市原市市西土地改良区の鶴岡和幸理事長が農林水産大臣表彰を、また、東葛北部土地改良区の渡辺昭博理事長が全国土地改良事業団体連合会表彰を受けられました。



表彰を受ける鶴岡理事長

引き続き「東日本大震災からの復旧・復興」「農業農村整備事業の展開方向」と題して農林水産省農村振興局小林次長の基調講演があり、東日本大震災の農地・農業用施設等の復旧状況については、津波を受けた6県の被災農地の6割以上で営農の再開が可能となったという報告、また攻めの農林水産業、減災・防災の推進体制・プログラムの説明がありました。

また東北の岩手、宮城、福島3県の土地改良事業団体連合会から東日本大震災からの復旧・復興状況の進捗の説明があり、併せて各県からの応援職員の派遣に対する感謝の意、被災各県、各地域とも「必ず復興するので今後とも全国の皆さまの支援をお願いしたい」という基調報告がありました。

さらに道内の優良事例地区紹介として、国営農地再編整備事業「中樹林地区」道営農地整備事業「川西西・川西中央地区」の紹介説明がありました。泥炭土壌に起因する排水不良対策、大区画化を契機として、生産から販売まで一体に活動する仲間作りの事例や、湿害を改善して「長いも」の品質収量向上により、地域の活性化が図られた事例が紹介されました。

その後、農協青年部の2名により、「豊かで美しいふるさとをこれからも守り育て、次の世代に引き継ぐ責務があり、大会テーマの意味するものを噛みしめて食と農業・農村の未来を確かなものにしていくことが重大な使命である。」と高らかに宣言されました。

最後に次期開催予定地である山梨県の連合会長からの挨拶があり、閉会となりました。

翌12日は国営かんがい排水事業の夕張シューパロダムの事業を視察しました。

夕張シューパロダムは石狩川水系の夕張川に、昭和36年に農業用と発電を目的に建設された「大夕張ダム」の直下流に新たに建設される重力式コンクリートダムです。新ダムは洪水調節、かんがい用水補給、水道用水補給、発電等の多目的ダムで平成26年度完成に向け現在工事中です。完成すると湛水面積全国第2位、総貯水量全国第4位となるそうです。



「夕張シューパロダム」

ダムの高さ	67.5m
ダムの長さ	251.7m
湛水面積	4.75km ²
総貯水容量	87,200千m ³

以上まとまらない参加報告となりましたが、今回の大会に参加して改めて農業農村整備事業の重要性、各県、各地域の農村地域の活性化に向けた共通した課題への取組みの大切さを感じました。

最後に千葉県からの土地改良事業功績受賞者に改めましてお祝いを申し上げるとともに、本大会の準備・運営をいただいた北海道土地改良事業団体連合会はじめ関係者の皆様には大変お世話になり、本誌面をお借りして感謝を申し上げます。

土地改良事業功績者の紹介

水土里ネット千葉 総務部

第36回全国土地改良大会(北海道大会)において、永年、土地改良事業に貢献した方々が表彰され、千葉県からは市原市市西土地改良区理事長の鶴岡和幸氏が農林水産大臣表彰を、東葛北部土地改良区理事長の渡辺昭博氏が全国土地改良事業団体連合会長表彰をそれぞれ受賞されましたので、ここに紹介させていただきます。

永年のご功績に対し謹んで敬意を表しますとともに、今後ともますますご健勝でご活躍されますことをお祈り申し上げます。

農林水産大臣表彰



鶴岡 和幸 氏

(主要経歴)

市原市市西土地改良区 理事長
 千葉土地改良協会 会長
 千葉県土地改良事業団体連合会 副会長

昭和57年4月、市原市市西土地改良区理事に就任、以来温厚誠実にして責任感が強く、広く関係者の信望を得て平成6年4月より理事長に互選され現在に至ります。

昭和59年に着手した県営かんがい排水事業新堀川地区では、連絡協議会長を務め、乾田化、省力化を目指した排水改良事業の推進に尽力され、早期完成に導きました。

土地改良区理事に就任以来、30年余が経過しておりますが、この間、市原市都市計画審議会委員、市原市農業委員等に就任され、地域農業の発展にご尽力されるとともに、千葉土地改良協会長(兼市原支部長)、県土連監事、理事、副会長の要職を務め、農業農村整備事業の推進に貢献しており、これらのご功績は誠に顕著であります。

全国土地改良事業団体連合会長表彰



渡辺 昭博 氏

(主要経歴)

東葛北部土地改良区 理事長
 東葛地域土地改良協会 副会長
 千葉県土地改良事業団体連合会 監事

昭和54年11月、東葛北部土地改良区船形工区委員に就任、以来温厚誠実にして責任感が強く、広く関係者の信望を得て平成11年6月に理事に就任、平成19年11月より理事長に互選され現在に至ります。

昭和53年に着手した県営ほ場整備事業東葛北部地区並びに県営かんがい排水事業東葛北部地区の実施にあたっては、事業の円滑な推進と早期完成に尽力されました。

この間、野田市農業委員、東葛地域土地改良協会副会長、県土連監事の要職を務め農業農村整備事業の推進に貢献しており、これらのご功績は誠に顕著であります。

平成25年文化の日 千葉県功労者表彰

文化の日にあたり、各方面でそれぞれ顕著な功績を挙げ、千葉県の発展に多大な貢献をされた方々に対し千葉県知事から表彰があり、4名の方々が「農林水産功労」（土地改良関係）として表彰されました。また、「地方自治功労」として土地改良関係者1名が表彰されましたので、ここにご紹介いたします。永年のご功績に対し心より感謝の意を表しますとともに、今後ともますますご健勝でご活躍されますことをご祈念申し上げます。

(敬称略)

《農林水産功労》◆ 清水 豊勝	現 印旛沼土地改良区理事長
◆ 寺嶋 昭一	現 香取郡東庄町桁沼土地改良区理事長
◆ 吉田 良雄	現 白浜町長尾土地改良区理事長
◆ 山田 重義	現 安房中央土地改良区理事
《地方自治功労》◆ 鈴木 勇	元 袖ヶ浦市議会議員（現 小櫃堰土地改良区理事長）

受賞者の紹介

清水 豊勝氏

平成5年から平成9年まで印旛沼土地改良区の総代を務め、平成9年に同土地改良区の理事に就任、平成13年には理事長に就任し、施設管理と組織運営にご尽力されました。

この間、老朽化した施設の長寿命化及び維持管理費の軽減を図るための「国営印旛沼二期事業」の着工に導きました。また、平成14年には印旛郡市土地改良協会の会長及び千葉県土地改良事業団体連合会の理事に就任し、地域の枠を超えた活動により、土地改良事業の推進や農業振興にご尽力されました。

寺嶋 昭一氏

平成3年に香取郡東庄町桁沼土地改良区の理事に、平成11年に副理事長、平成23年に理事長に就任し、同土地改良区の円滑な運営と土地改良事業の推進にご尽力されました。

この間、ため池の保全並びに用水確保を行い農業経営の安定を図り、改良区内の老朽化した幹線水路、送水管の布設替、揚水機場の改修にご尽力されました。また、東日本大震災時には、送水管の漏水箇所を迅速な対応で対処し、ほぼ例年どおりの用水開始に運ぶなど早期復旧にご尽力されました。

吉田 良雄氏

平成4年白浜町長尾土地改良区設立時から理事として、平成5年に副理事長、平成9年には理事長に就任し、21年間にわたり同土地改良区の健全な運営と、農地の整備と集団化を目的とする県営ほ場整備事業（地域開発関連）長尾地区の推進と土地改良区の円滑な運営にご尽力されました。

特に、本事業は、旧白浜町の農業基盤整備の契機となり、後

進の基盤整備事業推進につながり、地域農業の発展に寄与されました。

山田 重義氏

昭和61年から安房中央土地改良区理事として、平成10年から14年までは副理事長として、27年間にわたり土地改良区の健全な運営にご尽力されました。

この間、安房中央ダムの取水施設更新を目的とする県営かんがい排水事業安房中央地区にあっては、総代の意見を取りまとめ平成16年の事業化に貢献し、現在も事業推進にご尽力されています。また、土地改良区管理の農業水利施設の維持保全、農業用水の公平な配分運用に指導力を発揮されております。

鈴木 勇氏

昭和59年、袖ヶ浦町議会議員に当選して以来、6期24年にわたり在職し、住民の代表として議員活動を展開し、公害の防止や廃棄物処理対策の環境保全を促進されました。また、地域防災計画の見直しを行うと共に大規模災害への対策強化を図るなど、今日の本市地域防災計画の基礎を築き、地方自治の発展に寄与されました。

この間、各種審議会委員や君津郡市中央病院組合議会議員等を歴任し、地方自治に関する豊富な経験と卓抜なる識見をもって市の発展と住民福祉の向上に貢献されました。

※ なお、鈴木氏は、平成19年4月から平成23年3月まで、千葉県土地改良事業団体連合会理事を、平成2年11月から現在まで小櫃堰土地改良区理事（平成14年11月から理事長）を務めております。

「瑞穂地区水稲体験学習会」の開催

山武農業事務所 主任技師 中根 緑

県営経営体育成基盤整備事業 瑞穂地区では、平成16年度より地元の協力を得ながらほ場整備を進めてきました。現在は区画整理された田んぼで大豆の転作にも取組み始めており、平成27年度の事業完了を目指しています。

本地区では瑞穂環境保全会及び地元の瑞穂工区が中心となり、毎年瑞穂小学校5年生の体験学習会として田植えと稲刈りを実施しています。今年は5月29日と9月19日に実施しました。最近は近くに田んぼがあっても田植え・稲刈りをしたことがない子供もいるため、みんな田んぼの中に入ることにためらったり騒いだりしていましたが、いったん作業を始めるとすぐに要領を得て楽しそうにワイワイと田植えをしていました。



また、田植えをしたときはひよろひよろだった苗も4か月後には立派な稲穂になっており、子供たちから歓声が上がっていました。最近、子供たちにカマを使わせることが危ないなどの理由で避ける傾向もある中、地元の方々の指導を受けながら実際にカマを使って稲刈りをしてもらいました。子供たちには貴重な経験となり、とても良かったのではないかと思います。刈り取った稲穂は、今年も地元の方々が精米し、子供たちの手元へ届けていただきました。自ら田植えをし、収穫

したお米を食べながら、子供たちにお米を作る大変さ、大切さを知ってもらい、少しでも農業に興味持ってもらえたらなあ…と思いました



第19回

美しい農村環境 写真コンテスト

審査会の開催

水土里ネット千葉
管理指導部

「誰もが住んでみたい美しい農村環境」をテーマに毎年実施しております写真コンテストも第19回となり、皆様のご協力によりお陰様で73名の方から173点の作品の応募がありました。たくさんの応募をいただき心より厚くお礼申し上げます。

7月23日(火)に審査会を開催し、最優秀賞(千葉県知事賞)、県土連会長賞他各賞を決定いたしました。今回は、例年審査していただいております写真家の鰐山英次氏に代わり、同じく写真家の田村民雄氏に特別審査員として審査に加わっていただきました。

入賞作品は千葉市内にありますQiball(きぼーる)1階のアトリウムに展示しました。



また、表彰式は8月23日(金)13時30分より千葉県土地改良会館において執り行いました。



最優秀賞(知事賞)の授与



田村氏に講評をしていただきました。



田村氏(前列中央)と受賞者の皆様

賞状授与のあと田村氏に講評をいただきましたが、「私は千葉県に住んでおり、手賀沼の写真を撮り続けております。今回審査員として参加させていただき、千葉県にはまだまだ素晴らしいところがあるということを発見させていただきました。ぜひこれからも、感動を感じることができる写真を撮り続けてください。」というお話がありました。

展示

平成25年8月15日(木)～8月16日(金)
千葉市中央区中央 Qiball(きぼーる)アトリウム



第19回

美しい農村環境 写真コンテスト 作品評

【講評】特別審査員
田村民雄氏
(日本写真文化協会)
(撮影者:敬称略)



最優秀賞(千葉県知事賞)

「未来」

撮影場所：東金市 撮影者：敦賀 和隆

いいタイトルですね。おじいちゃんとお孫さんでしょうか。おじいちゃんが孫に託した夢ですね。この子がおじいちゃんの思い通りに将来農業に進むかどうかわかりませんが、おじいちゃんにとっては良い思い出となった事でしょう。お孫さんの真剣な表情とおじいちゃんの優しい眼差しを真正面から巧みに撮られた作品です。



千葉県土連会長賞

「暗なずむ無人の駅」

撮影場所：市原市 飯給駅 撮影者：金親 芳夫

みごとにライトアップされた桜並木と無人駅が、薄明かりの残照の中に一段と輝きを増している。絶好の撮影時間が紺碧の空色を作り出し、凧の湖面に映し出された桜並木と無人駅が、より一層印象的な作品に作りあげている。タイトルが写真と合っていないので再考を!また、次回には電車を走らせてください。

特別賞



【千葉県農村振興技術連盟賞】

「冬晴れの朝」

撮影場所：富里市
撮影者：新田 幸雄

富里の特産はスイカであるが、冬にスイカの宣伝となると違和感を覚えるが、町の広告塔となると納得する。それにしてもこの写真は、雪の日の早朝の空気感と、みごとに晴れ渡った空、雪原に差し込む光と影、たなびく霧、これ以上ない条件下で、見事なレンズワークによって、的確な構図の作品に仕上げている。



【千葉県農地・水保全管理協議会賞】

「里の春」

撮影場所：香取市
撮影者：石井 昌良

今、里山が注目をあびている。放置農地が荒れ放題となり、地域の人々が里山への再生へと努力している。この写真は里山的雰囲気を感じます。山間の中の田んぼでの田植え、整備された畑には季節の花を植え、訪れる人を歓迎してくれている。この心温まる情景を構図よく作品にまとめている。



【ちば水土里支援パートナー賞】

「ロールづくり」

撮影場所：旭市 琴田
撮影者：坂倉 徹

20数年前、北海道で初めて出合ったロールに驚いたが、関東近辺、千葉でも作られていると聞いて成田の方に見に行った事がある。この写真はワイドレンズを巧みに使い、ロールと作業者の距離感を作り、斜光線によって立体感を演出している。霧にかすんだ遠方の表現も抜け目ない。



金賞

「春が来た」

撮影場所：白井市 今井 撮影者：渡部 美智子

ハイアングルでの撮影のため、二人の表情を見る事はできませんが、ほほえましさを感じる作品となっている。上に桜を配し、下に人物を配し、画面いっぱい春を感じさせる無駄のない構図となっている。次回、同じようなチャンスに出合ったら、カゴの中に野菜が入っている状態で一枚撮って下さい。



「収穫」

撮影場所：八街市 撮影者：金親 俊夫

メロンの番をしている訳ではないでしょうが、なんとなくユーモラスな写真です。ただ主役はメロンですが、この写真は猫がいることによって成立っているの、猫の位置とか、猫にしっかりとしたピントを合わせるとか、脇役にもしっかりと気を遣うようにしてください。

銀賞



「舞鷺」

撮影場所：長生郡長南町 撮影者：栗原 一行

サギは非常に警戒心が強く、臆病な鳥です。よってサギの飛んでいる美しい写真はなかなかお目にかかる事はありませんが、この写真は完成度が高く撮られております。白く躍動感ある姿が、淡い早苗田をバックに一段と引き立っております。

銅賞



「青空に映える」

撮影場所：旭市 袋溜池 撮影者：小栗山 秀男

青い空・白い雲・満開の桜に鯉のぼりの雄姿、これだけの条件が揃えば傑作ができない訳がないと思ってしまうのですが、そこは感性次第。この写真は自信作と思われま。確かに良くまとめた作品です。ただ惜しいのは、鯉のぼりの右下を全部入れてほしかった。



「大地の子」

撮影場所
旭市
嶋田 洋

お手伝い、お遊び。普通ではめったにできない体験を、この子は幸せ者である。将来は農家のお嫁さんに…。無邪気な田んぼでの子供の表情をうまくとらえている。ハイアングルの撮影で遠景には田植えに精を出している人を配し、しっかりとした画面にしている。プリントの色に気を遣ってほしい。



「早苗田に遊ぶ カルガモ2家族」

撮影場所：茂原市 撮影者：君塚 彰

子を想う気持ちは人間と一緒にですね。いや人間以上かもしれないね。偶然にも鉢合わせしたカルガモ2家族。レース状の早苗田から顔を出した親ガモ。何かを警戒しているのか一緒にの方向を向いた一瞬をとらえた心温まるユーモラスな写真です。

佳 作



「ホタル舞う水田」

撮影場所：南房総市
撮影者：山口 正明

蛍を撮るには技術的に難しい点もありますが、良く撮れています。それにしてもちょっと淋しい数ですね。奥の方に多数見えますので、そこを狙えなかったのでしょうか。



「霧氷つく」

撮影場所：佐倉市
撮影者：田村 雅彦

きれいに付いた霧氷ですね。遠方のポッチ群によって田園風景が良く表現されています。日の出直前だったら霧氷に輝きが出て、立体感ある写真になったと思います。



「五月の水田」

撮影場所：香取市 橋ふれあい公園
撮影者：牧元 晴美

畔道を楽しそうに散歩する。それを見守っているような風になびく鯉のぼり。5月の代表的な写真に仕上がっています。人物を画面真ん中におさめるより、少し後方でシャッターを切った方が画面に動きがてます。



「汗の結晶！出荷前の調整」

撮影場所：八街市
撮影者：金親 芳夫

出荷前のチェックか。整然と並べられたスイカに差し込んだ光が、立体感を与えている。それをハイアングルから狙った撮影意図はさすがである。が、周囲を少し整理してほしい。



「朝の道」

撮影場所：八街市
撮影者：川嶋 亥良

霧にけむるコスモス街道を帰る二人の女学生を、タイミング良くシャッターを切った作品です。構図的には、二人がもう数メートル先に行った時の方が良いと思います。リュックが目立ちすぎます。



「昆虫採集の親子」

撮影場所：鴨川市 大山千枚田
撮影者：菅原 譲太郎

夏休みの一時、無心に昆虫を捕るお兄ちゃん、捕ったものを母親に見せている弟たちのほほえましい情景の写真です。画面が窮屈すぎるので、もう少し引いて田園の雰囲気表現した方が良かったですね。



「田植のころ」

撮影場所：市原市 高滝駅付近
撮影者：吉野 章郎

田植えと、ローカル線の感じは良くでている作品ですが、電車と田植機が画面中央にまとまりすぎているため、遠近感が表現されなくなってしまっています。田植機はもう少し手前で。



「田植前の養老溪谷」

撮影場所：市原市 養老溪谷
撮影者：吉野 恭子

機械化全盛の中にあつての手作業は、里山での作業でしょうか。ねらいが十分表現できない写真になってしまいました。空の部分大胆にトリミングする事により、作者の狙いは明確になるはずで。



「のどかな田園」

撮影場所：佐倉市
撮影者：新田 幸雄

刈り入れ後の田んぼに、長くおとした影のコントラストが良く、自転車に乗った人を入れる事によって、画面に動感がでてきている。美しい作品に仕上がっている。



「春近し」

撮影場所：旭市
撮影者：西宮 明

早春の一コマ。紅梅と茅葺き屋根から立ち上る湯気が早春の暖かさを感じさせる作品です。せつかく日だまりまでフレーミングしてあるのでポイントとなる物がほしかったですね。



「こだわりの農業」

撮影場所：東庄町
撮影者：西宮 美知子

秋空の下での稲干し作業。青い空に流れるような白い雲。印象的な写真です。しかしこの写真の主役は農作業している2人である。2人が主役となるカメラアングル、構図を考えてください。



「耕地の朝」

撮影場所：いすみ市 作田
撮影者：波多野 保

黄金色に輝いている大地。農地の見回りか、散歩か、それとも朝帰りか。人を入れる事によって完成度を上げています。下の黒い部分をいくらかトリミングすると力強い作品になります。

「水の週間」 中学生 水の作文コンクール入賞作品

千葉県総合企画部 水政課



「水の日」(8月1日)及び「水の週間」(8月1日～7日)は、水資源の有限性、水の貴重さや水資源開発の重要性等に対する国民の関心を高め、理解を深めるため、昭和52年に国において定められました。毎年この期間に水に関する様々な啓発行事が全国的に実施されています。その一環として、次代を担う中学生を対象に「水について考える」をテーマとして「全日本中学生水の作文コンクール」を国と都道府県の共催で実施しており、今年で35回目となります。

千葉県は広い県土と豊かな自然に恵まれているものの、県内の河川は流域面積が小さいことなどから、水資源に関しては決して恵まれているとは言えません。このため、必要な水の約3分の2を利根川に依存していますが、利根川上流の水源地施設の完成にはまだ時間を要するため、十分な水が安定的に確保されているとは言えない状況です。

そこで県では、利根川上流の水源地の方々のご理解、ご協力をいただきながら、水源地施設の建設を促進し、安定的な水の確保を図るとともに、雨水や汚水処理水の再利用等、水を大切にする節水型社会を目指しているところです。

今回のコンクールには、水道用水、工業用水、農業用水など、水への理解、関心がある中学生からの意見が多数寄せられ、県内の中学校6校から総数492編の応募がありました。その中から、特に優れた作品8編を千葉県地方審査会において選定し、去る8月2日に表彰式を行いました。

ここに、最優秀賞及び優秀賞の作品3編を、原文のままご紹介します。また、その他の入賞作品につきましても千葉県ホームページに掲載しておりますので、こちらもご覧ください。

URL:<http://www.pref.chiba.lg.jp/suisei/sakubun/index.html>

最優秀賞

水とお米と環境

八千代松陰中学校 3年
市川 司

僕の田舎は、新潟県糸魚川市木浦という場所にある。道を挟んだすぐそこに日本海がありよく釣りをしている。家の後方には山があり、大自然に囲まれている。そこで祖父母はお米を作っている。

春になると、田んぼにはたくさんの水が張っていてその中に苗が浮いているように見える。夏に田舎に帰ると、祖母が朝に夕に「ちょっと水を見てくる。」と言って出掛けて行く。秋になり、新米が採れると、沢山家に届けてくれる。それは、スーパーのものとは比べものにならない程美味しい。祖母は、「お米が美味しいのは、水が美味しいからだよ。」と言っている。何故、水が美味しいとお米が美味しくなるのだろうか。と不思議に思い、調べてみることにした。

祖母の田んぼの水は、家の近くにある木浦川から引いてきた水だ。用水路を通して田んぼに流している。木浦川の水は、鉾ヶ岳を主峰とする、権現岳、大沢岳を連ねるコの字型の大きな山々を源としている。約1000メートル級の山々から雪解け水や雨水になって木浦川へ流れ込んでいる。この雪融け水にはたくさんのミネラル分が含まれている。稲が多くのミネラル分を吸収することによって、丈夫で良質な稲に育つ。

美味しいお米が採れるところは豪雪地域に多いと言われている。今年は特に大変な大雪で、それによる交通の遮断や雪掻きで祖母も大変苦労したそうだ。しかし、この大雪が融けて雪融け水となり、お米を育てるのも事実。どんな時もお米は水に育てられてきたのだ。

調べてみると、日本では1キロの米を生産するのに3.6トンの水が必要と算定されている。稲作や畑作を支えている農業用水とは、人々の食生活を支えるものであり、命を支えるという意味では飲み水と同じように重要だと思われる。農業用水の使用量は、日本の水の総使用量の834億トンに対し、549億トンになり、約66パーセントを占めている。近年では少雨と多雨の年の年間降水量の開きも大きくなっている。大雪で雪融け水が期待できたとしても、安定的な水の確保が難しくなっているのが現状だ。そこで、各自治体では、水を安定的に確保するため、貯水池やダムなどの有効活用を考えているようだ。

今、地球では急激な勢いで、砂漠化が進んでいる。水がほとんどない地域が増え、水が減っていつている。先日、大変強い風の日自転車サドルもベランダも車も黄色くなっていた。これは、黄砂によるものだとニュース番組で放送されていた。中国も砂漠化が進んでいると身をもって感じた。

日本は海に囲まれた島国なので、流れている川は全て日本のものだ。なので、国際河川はない。しかし、1本の川が何カ国にも流れている川がある。そんな国々は水を引く量などをめぐって対立しているという。人口増加による水不足や砂漠化によってこのような争いはさらに増えると予測される。水のせいで戦争になるとは、少しも考えられない。

水が足りないために国々で対立してしまっているのは人間のせいだ。砂漠化が進んで日本にも黄砂が飛んでくるようになったのも人間のせいだ。でも元の環境に戻ることは出来ない。だが、皆水は貴重な限りのある大切な資源だと考えられれば元の環境に近づくことは出来るはずだ。

「お米が美味しいのは、水が美味しいからだよ。」という祖母の言葉がどれだけ幸せなことか。これからもずっと美味しいお米が食べられるよう水を大切にしていきたい。

優 秀 賞

世界の人々に おいしい水を

八千代松陰中学校 3年

岩澤 紗穂



酒々井の水。これは、私たち酒々井町の人なら誰でも知っている、酒々井町自慢の水である。私が住んでいる酒々井町は、湧き水、水路、田んぼ、池、小川など、水が豊富な町である。また、酒々井の人は、蛇口をひねれば100パーセント地下水の水を飲むことができる。それに、酒々井には酒々井の水で有機菜園をしているレストランがあったり、「酒々井の水で打った手打ちうどん」と宣伝しているうどん店があったり、きれいな水の近くにしか住まないホテルをたくさん見ることができる「ホテルの里」があったりと、水がきれいでおかつ、豊富な町でもある。

しかし、世界に目を向けてみると、インターネットで調べたところ、地球にはおよそ13.8億平方キロメートルという膨大な水があるが、そのうちの約97.5パーセントが海水で2.5パーセントが淡水である。

そして、そのうちの70パーセントが南極・北極地域の雪氷や氷河で残りの大半は地下水であるため、これらの水は簡単に利用する事が出来ない。よって、私たちが使える水は地球の水資源の0.01パーセントに過ぎない。例として、お風呂一杯分の水を地球の全ての水資源とすると、人間が使える水は両手にすくった量にも満たないという。そう考えてみると、改めて水は貴重で私たち人間にとってはなくてはならない大切なものだということを感じた。また、世界には、11億人もの人が安全な水を飲むことができていない。日本では、蛇口をひねれば水を飲むことができるが、外国では水を汲んでくることが女性や子供たちの仕事になっている国もあり、何度かそのような映像を見たことがある。

そこで、私たちに何ができるだろうか？例えば、自分に一番身近ですぐできることとして、「節水」がある。改めて、自分の生活を振り返ってみると、節水どころか無駄の方が多様な気がする。今日からでも始められることとして、歯磨きの時の水はコップ一杯で済ませたり、洗い物をする時は水の量を考えたりと、出来ることを自分なりに沢山やっていきたいと思う。

次に、今ある豊かな水を守っていかなくてはならない。私たちが使った水は、生活排水として処理され、川や沼に流されている。例えば、油500ミリリットルをそのまま生活排水として流した場合、魚が住めるぐらいのきれいな川に戻すためには150,000リットルもの水が必要になる。私は、150,000リットルという水の量を詳しく調べてみた。例えると、浴槽750杯分だということが分かり、これこそ無駄な水だと思った。

だから、生活排水は出来るだけ汚さずに少なくすることで無駄な水を使わずに済むだろう。使う洗剤の量を少なくしたり、環境に優しい成分のものを使ったりすることができる。

他には、雨水を利用する方法を考えなくてはならない。雨水を農業用の水にしたり、洗車用の水にしたりすることは行われている。実際に、私の家では米作りに雨水を利用していたり、庭の植物への水やりにもなるべく利用するようにしている。また、小学校や公共施設のトイレの水も雨水を利用しているところもある。また、飲み水にする技術はすでにあるが、水が豊富な日本ではたくさんの人が利用しているわけではない。だが、この技術を雨は降るが安全な水を得られないような国の人たちに広めることで、たくさんの人が安全な水を使うことができるようになると思う。

このようにして、今ある豊かな水を守り、少しずつでも自分に出来る最善の方法を行い、たくさんの人に水の大切さを広めていきたい。そうすれば、一人一人の力が集まってたくさんの人を救うことができるだろう。「酒々井の水」のようなおいしい水を世界中の人々が飲めるようになる未来のために…。

優 秀 賞

蛇口から流れる喜び

国府台女子学院中学部 2年

高瀬 有沙

小学生の時、断水を経験しました。夏特有の夕立が集中豪雨となり急に暗くなってきたと思ったらバケツをひっくり返した様な大雨と紫色に光る雷が空から地上へ広がってきました。暫くすると突然、家中が真っ暗になりました。停電した様でした。母が、懐中電灯を持って家中を点検し始めました。私は後ろから付いて行き、最後に台所へ二人して足を進めました。母が蛇口のレバーを上へあげると数滴の水しか出せません。マンションなので、大本の貯水器から個宅へ運ぶメーターが停電のために止まってしまったのです。夕方にさしかかっていたため、お風呂の水も溜めてあり、夕食の支度も済んでいたのであまり慌てませんでしたが、暗闇で断水は少し不安でした。

大雨の中、作業員の方達が復旧作業をしていたようですが、その晩は断水のまま就床しました。

朝起きてパジャマのまま蛇口のレバーを上へあげると「ジャー」と勢いよく水が流れ出しました。これで、普通の生活に戻れると安心しました。流れる水が、いつもと違って愛おしく大切に感じました。と同時に不安もおそってきました。もし、断水が何日も続いたらどうなるのでしょうか。トイレの水も流せず、お風呂は入れないし、飲食はどうすればよいのでしょうか。

その日、家族で話し合い、クローゼットの中にはペットボトルの水が並びました。洗顔の時、歯磨きの時、水を流しっぱなしにせずに細めに止めるようになりました。小さな事でも一人ひとりが気を付ける事によって一億人分の節水が大きな水となると思います。それでも雨が降らない日が続いてダムの水が不足する事はあります。

屋根に太陽熱を集めて電力を貯めるソーラーシステムの様に雨水を集めるウォーターシステムを屋根に付けるのはどうでしょうか。日の当たる方向にソーラーシステム、日陰の方向にウォーターシステムを取り付け、蒸発を防げる為、太陽熱を使って冷却します。個々が貯水すれば、ダムの水が少し不足しても断水という危機は免れるのではないかと思います。

日本は、毎日いつでも安全な水が蛇口をひねると出てきます。水の浄化が進んでいなくて生水を飲めない国々もたくさんあります。

日本に住み安心して美味しい水が口に来ることに感謝したいです。その水はたくさんの人の努力と汗と時間のおかげだと旨に強く刻んで生活していきたいと思います。



東日本大震災の 被災地からの 復興便り

福島県いわき市役所農地課
小関 純一(千葉県派遣職員)

今年1月から福島県いわき市に農業土木の技術員として派遣され、東日本大震災で被災した頭首工や排水機場などの農業用施設の災害復旧工事を担当しております。

いわき市は福島県浜通り南部に位置し、福島県最大の面積を誇り、中核市に指定されています。比較的寒暖の差がなく山間部を除いてはあまり雪が降らないなど、東北地方であっても温暖な気候であるため、千葉から転勤してきた私にとって住みやすい街です。

東日本大震災では、地震と津波により400名以上の尊い命が失われ、原発事故も重なり、未曾有の被害をもたらし、震災当時の写真を見ると、言葉を失うような光景ばかりです。

震災から3年目を迎え、地震で被災した農地や農業用施設は概ね復旧されましたが、津波で被災した沿岸部の農地は、東日本大震災復興交付金事業で今年からは場整備(3地区:約250ha)が実施されるなど、本格的な復興はこれからです。

震災から3年目を迎え、地震で被災した農地や農業用施設は概ね復旧されましたが、津波で被災した沿岸部の農地は、東日本大震災復興交付金事業で今年からは場整備(3地区:約250ha)が実施されるなど、本格的な復興はこれからです。

まだ、沿岸部の住宅地では、津波により基礎だけが残された地域が数多く見受けられ、依然として仮設住宅などでの生活を余儀なくされる方々がいるのが現状です。



▲被災市町村への派遣職員の出発式
(右から2番目)



▲津波の被害を受けた田んぼ



▲余震による田んぼの断層



▲地震で被災した農道

今年5月に復旧が完了した水田で作付けが再開された風景を見ると、生産者の方々の復興に向けた熱い想いを感じ、一日も早い復興に向けて、私も精力的に業務に取り組んでいきたいと思えます。

いわき市では、映画「フラガール」のヒットを観光振興に生かし、復興への機運を高める目的で5月中旬から9月末までのクールビズ期間の金曜日にアロハシャツを着用して業務に当たるアロハフライデーという取り組みがあります。

最初はアロハシャツが着慣れないので少し恥ずかしかったのですが、着慣れてくると、気分が明るくなり、現場では、蝶々がアロハシャツの花柄を花と間違えて近づいてくるなど、心が穏やかになります。

今年7月にプロ野球オールスターゲームが開催され、復興に向けて全力で取り組んでいる元気な姿が発信されておりますが、「フラガール」の舞台となったスパリゾートハワイアンズ(旧:常磐ハワイアンセンター)や「三函の湯」として数えられる名湯いわき湯本温泉など、熱い想いとパワーが溢れるいわき市に是非遊びに来てください。



▲地震により段差ができた林道



▲地震で亀裂が生じたため池



▲沿岸部の現状



▲復旧した水田に田植えをされた様子



復旧された農道▶



◀アロハの花柄に寄ってきた蝶々



ちばの直売所フェア

11月1日から30日までの1カ月間、千葉県内の農林水産物直売所のうち、110店舗が参加して「ちばの直売所フェア」を開催しています。

2カ所の直売所でスタンプを押すスタンプラリーを実施。商品抽選を行う直売所には応募箱が設置されており、応募用紙を投函した直売所の商品が抽選で当たります。



くわしくは千葉県のホームページで“直売所フェア”と検索、

ちばの直売所フェア

検索

または直売所等に設置されたリーフレットをご覧ください。

お問い合わせ

千葉県農林水産部農村環境整備課

電話 043-223-2782

(平日9:00~17:00)

※参加直売所はポスターやのぼり旗が目印です。

美しい農村環境

第20回

写真コンテスト作品募集中!

20th Anniversary

水土里ネットちば 300号 (平成25年11月発行)



発行

水土里ネット千葉(千葉県土地改良事業団体連合会)
〒261-0002 千葉市美浜区新港249番地5
TEL.043-241-1711(代)/FAX.043-248-2563(代)

印刷

株式会社ニッセイアド
〒264-0026 千葉市若葉区西都賀4-18-3
TEL.043-206-7752/FAX.043-206-7753